

本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、株式会社 IDOM の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<社会> 交通手段 <環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性	<ul style="list-style-type: none"> 中古車買取事業・中古車販売事業・整備事業を通じた、ニーズに合った交通手段供給への貢献 中古車買取事業・中古車販売事業・カーシェアリング事業・カーサブスク事業を通じた、中古車の資産価値の維持と循環の促進による、効率的な資源利用への貢献 〓 直営小売台数：140,119 台（2022 年 2 月期） 〓 国内グループ総買取台数：245,903 台（2022 年 2 月期）
<環境> 気候	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素自動車（ハイブリッド車・EV）の中古車販売を通じた、GHG 排出量削減への貢献
<社会> 雇用 <経済> 包摂的で健全な 経済	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティ（女性、外国人）の雇用拡大・活躍推進 〓 ダイバーシティの考え方に基づいて、従業員の健康・労働環境に配慮し、多様性の確保を推進することを重点テーマとし、性別を問わない育児休業の取得促進や全女性社員の活躍支援のための「さくらプロジェクト」を実施 〓 女性正社員数：524 名（単体；2022 年 2 月期） 〓 育休取得数：33 名（単体；2022 年 2 月期）

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<環境> 気候	【インパクトの状況】 <ul style="list-style-type: none"> 事業活動に伴う GHG 排出量増加 〓 Scopes 1&2 排出量 約 1.3 万 t-CO₂（2021 年 2 月期） 【緩和・管理の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 直営店舗照明器具の LED 化 働き方改革推進によるオフィス規模の縮小
<社会> 強固な制度、 平和、安定	【インパクトの状況】 <ul style="list-style-type: none"> 2011 年および 2017 年において消費者庁より景品表示法違反の指摘および措置命令 【緩和・管理の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 再発防止のため、社内メディアを利用した法令順守のアナウンス及び、その理解度を確保するコンプライアンステストを定期的実施 独自のコンプライアンスガイドラインを策定し、全社員に配布、新入社員研修ではコンプライアンスにかかわる内容の受講を必須としている
<環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性	【インパクトの状況】 <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物排出量 〓 1,716t、売上高原単位 6.1 千 t/百万円(2020 年 1-12 月) 〓 1,849t、売上高原単位 5.9 千 t/百万円(2021 年 1-12 月) 〓 1,996t、売上高原単位 5.6 千 t/百万円(2022 年 1-12 月) 【緩和・管理の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 年に一度、サステナビリティ委員会にて排出量のモニタリングを実施する体制を整備 適正処理を行う観点から産業廃棄物事業者を選定の上処理を依頼し、リサイクル可能な廃棄物はリサイクル処理を実施 廃棄物の発生元となる部品・消耗品について無駄のない購入および使用を推進

<p><社会> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】 ・労働時間の増加 ↳平均残業時間：22.5 時間（2022 年 2 月期） 【緩和・管理の状況】 ・公休日数の増加の取り組みなどを通じた総労働時間の短縮、性別を問わない育児休業の取得促進、働き方改革推進による在宅勤務を含めた能力を最大限発揮できる環境の構築</p>
<p><社会> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】 ・労働災害の発生 ↳30 件（2021 年 2 月期） ↳46 件（2022 年 2 月期） ※整備場等での業務災害、交通事故が主であり、直近年度で重大な労働災害は発生していない 【緩和・管理の状況】 ・整備場における業務災害への対応：安全な作業のためマニュアル整備や安全確認の徹底を含んだ教育を行い傷害発生防止に取り組んでいる ・交通事故への対応：交通安全にかかる教育を行い安全運転徹底の啓蒙を行うことで交通事故発生防止に取り組んでいる</p>
<p><環境> 大気</p>	<p>【インパクトの状況】 ・中古車の自走、牽引車による販売前の移動時における排気ガスの排出 【緩和・管理の状況】 ・自走、牽引車による移動は国や法令が定める排気ガス規制に準じた車両によって運航がなされることで対応されている</p>
<p><社会> 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】 ・故障車両や安全基準を満たさない車両による交通事故発生の可能性 【緩和・管理の状況】 ・車両買取時において車両状況を確認する査定・検査業務により車両の安全性が確認されており、検査マニュアル及び検査項目チェックシートを策定し検査実務の品質向上に対応している ・法人企業向けに交通安全啓蒙活動のための無料イラストの提供するキャンペーンを実施するなど交通安全に関する啓蒙活動に取り組んでいる</p>

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持し、ネガティブ・インパクトの抑制を図るため、株式会社 IDOM による今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI 等）および、特定したインパクトの項番との主な対応関係については以下の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI 等）
<p>・消費者ニーズに対応したハイブリッド車・EV などの環境に配慮した車種の普及促進</p>	<p>【目標】 ・2028 年 2 月期におけるハイブリッド車・EV 販売台数 2 万 7,000 台以上（対象範囲：国内コア事業*） *IDOM、東京マイカー販売による事業 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・ハイブリッド車・EV 車販売台数</p>
<p>・女性活躍の推進</p>	<p>【目標】 ・性別を問わない育児休業の取得促進（対象範囲：国内コア事業） ↳今後 3 年間の取組：性別を問わない育児休業の取得促進、全女性社員の活躍支援のための「さくらプロジェクト」を実施 ―「店長資格制度」を更新し、男女問わず店長を目指す意</p>

	<p>欲を向上させるための環境を整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> —女性社員の働き方や受入れについて議論する「座談会」の実施により、ダイバーシティの実現に向けたコミュニケーションを推進する —女性管理職と直属でない女性社員の斜めの「1on1」面談の実施により、女性の働き方に関する自己及び他者の理解を推進する <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育休取得数 ・ 育休取得数の増加に向けた取組状況
<p>・ 温室効果ガス排出量の削減 (Scope1&2)</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地面積当たりの温室効果ガス排出量の削減（対象範囲：国内コア事業） <p>↳ 今後3年間の取組：直営店舗照明器具のLED化の推進（新店店舗・展示場におけるLED使用率100%）</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地面積当たりのGHG排出量

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年1回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上